

自己紹介をしますと、私が28年前に僧侶になった頃は、佛教大学の先生方からも「何かあったの？」と聞かれるほど、僧侶になる女性は少なかったのです。目指したきっかけは、佛教大に当時新設の仏教看護コース（現在は廃止済み）に興味を持ち、佛教大に確認したところ、僧侶になることを勧められて「まず僧侶になった後で、仏教看護コースに進もう」と考えたからです。このコースは実際には、僧侶よりも医療者が多く、末期患者への接し方などに悩んでいた人が多かったですね。専攻科を卒業後、もっと勉強したくなり大学院の仏教文化専攻に進みました。

母方の祖父が浄土宗の布教師で、自坊は観音信仰のお寺。小さい頃から観音さまに手を合わせる皆さんを数多く見て育ちました。祖父は私が17歳の頃に亡くなりましたが、カセットテープが残っており、今も時々、聴きます。一貫して極楽往生を説いていました。

実家のお寺へ今はなかなか通えていませんが、周囲の諸先輩方にお世話になり、近隣の県のお寺のお手伝いで棚経たなきょうなどに参らせていただくことがあります。昨今、「子どもにも迷惑をかけてたくない」と、よく墓じまいの相談を受けますが、人間は生まれた時から互いに迷惑をかけていく存在なんですから、「迷惑かけて申し訳ない」などと遠慮しないで欲しいですね。日本は、宗教を気軽に語り合う場がないと言えます。1995（平成7）年1月に阪神淡路大震災、続いて3月にはサリン事件が起きたためか、宗教を語るのは「危ない」と認識する人が増えたようです。大学の先生方の中ですら、宗教を話しにくい環境が増したように感じます。

### ● 宗教を気軽に語り合える場がない日本

講演

# 法然上人の語り ～女人往生を通して

華頂短期大学 総合文化学科教授 工藤美和子



1月31日に開かれた「総本山知恩院 冬安居道場」での講演要旨を採録しました。



工藤美和子（くどう みわこ）

1972（昭和47）年、福岡県生まれ。佛教大学大学院文学研究科仏教文化専攻博士課程修了。博士（文学）。2012（平成24）年に華頂短期大学歴史文化学科准教授、2019年から華頂短期大学総合文化学科教授。著書に『平安期の願文と仏教的世界観』（思文閣出版、2008年）、『賢者の王国 愚者の浄土—日本中世誓願の系譜』（思文閣出版、2019年）など。亀甲山宝池院長谷寺（福岡県鞍手町）副住職。法名：工藤和興。